

急速な少子高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、住みよい環境を確保して、将来にわたり社会を維持することを目的としています。

人口の現状と将来の展望を提示する「人口ビジョン」、地域の実情に応じた今後5カ年の施策の方向性を提示する「総合戦略」の二つで構成されたものです。

美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【基本目標 1】

地域の基幹産業を守り育て、強化するとともに新たな産業と雇用の場を作る

(基本的方向性)

美幌町の基幹産業である農林業においては、地域資源を改めて見つめ直し、付加価値向上、新商品開発化や産業間連携による地域経済の更なる活性化を目指します。

また、観光業においては、女満別空港への距離や道東地区の交通の要衝であることなど当町の地理的優位性を活かし、今ある地域資源を起点として、更に新たな魅力づくりや滞在型観光など経済波及効果を求めた観光施策に取り組めます。

これらの産業の強化を通して、新たな就業者の獲得と雇用を創出するとともに雇用の安定化、地域経済の向上を図ります。同時に、意欲ある人材が美幌町において活躍できる環境整備に努めます。

- ・ 施策 1 農林業における経営の強化・人材の確保
- ・ 施策 2 商工業における経営の強化・雇用の確保
- ・ 施策 3 地域資源を生かした観光の推進

【基本目標 2】

「びほろ」らしさを活かして、ひとを呼び込み・呼び戻す

(基本的方向性)

美幌町における人口の社会増減は、ほとんどが北海道内の移動であり、その中でも30代までの人口移動が多い状況となっています。

特に20代の転出入が多いため、この世代を中心とした定住促進を図ること、社会減少が抑制され、その後の人口の自然増加につながると考えられるため、若年から子育て世代を中心とした定住促進策を推進します。

また、美幌町での暮らしやすさや魅力を全国各地に向けて発信し、新たな「ひと」の流れづくりを推進します。

さらに、基幹産業である農林業と自衛隊駐屯地を抱える美幌町は、その特長と基盤を活かし、企業及び政府関係機関の誘致に努めることにより、人口減少の抑制対策にあたります。

- ・ 施策 1 移住相談窓口の整備
- ・ 施策 2 移住促進・住環境による転出抑制支援
- ・ 施策 3 企業・政府関係機関の誘致

【基本目標 3】

このまちで出会い結婚し、子どもを産み育てたいという希望をかなえる

(基本的方向性)

美幌町は全国・北海道に比べて高い合計特殊出生率を誇っていましたが、人口規模が長期的に維持される水準である2.07を大きく下回る状況が続いています。

しかし、アンケート調査における希望する子どもの数は、平均して2.5人となっており、実態と希望が合っていない状況となっています。

そのため、妊娠から出産、保育に至るまでの子育て環境の整備や、教育環境全般にわたる施策の充実を図ることによって、美幌町で子どもを生み育てたいという環境づくりに取り組みます。

また、結婚を望む男女の希望をかなえるため、出会いから結婚までのサポート体制を整えます。

- ・ 施策 1 結婚までの支援
- ・ 施策 2 出産、子育て支援（中学生まで）
- ・ 施策 3 教育環境の充実

【基本目標 4】

住み続けたいと思える生活環境を整える

(基本的方向性)

美幌町が高い持続性・自立性をもって次世代につなげていくためには、住民にとって住み続けたいと思える生活環境が必要です。

平成30年に実施した町民アンケートによると、年齢が下がるにつれて住みごこちの良さの割合が下がる傾向にありました。

とくに10代～30代までの若年層では8割を切る結果となっていることから、産官学等と若者が連携し、若者世代が将来を見据えた住みよいまちづくりを自ら考え、実践できる体制を整えます。

地域や未来を担う「人づくり」と経済活性化による「しごとづくり」を好循環させる「まちづくり」を推進し、美幌町が全ての住民にとって住みよいまちとなることを目指します。

- ・ 施策 1 若年層の雇用創出
- ・ 施策 2 若者のまちづくり活動の推進
- ・ 施策 3 防災体制の充実による安心安全なまちづくり